

学校別傾向と対策～淑徳与野中学校～

算数

出題傾向

50分間で大問6題程度の構成になっています。大問1と大問2は小問集合になっています。大問2には、難易度の高い問題が出題される傾向があるため、小問集合は出来る問題なのか出来ない問題なのかの判断が必要になります。似たような魔法陣の問題が何度も出題されており、傾向の偏りが見えます。また、大問3以降の問題は、図形の移動、点の移動、図形を折るなどの図形問題と規則性問題が頻出になり、大問3以降の問題では割合や特殊算などの文章題がほとんど見られません。

合格への対策

他の中学校と比較しても圧倒的に図形問題の出題が多いため、そこを対策することが合格への近道となります。文章題なども出題はされますが、小問集合で出題される程度で難易度は高くありません。そのため、最低限の文章題を解く力をつけ、難易度の高い図形問題を対策することが大切になります。また図形問題では、図形の移動がとてもよく出題されています。図形の移動を書き込む作図問題も出題されていますので、図にまともながら理解することを意識した演習を行うことが大事になります。

国語

出題傾向

漢字の読み書き、物語文、随筆文の3題構成です。読解問題については、それぞれ設問数は9問程度でそれぞれ記述問題が2～3問あります。記述では字数制限がないものが多いです。それ以外は選択肢問題が主体で文脈を問うものはもちろんですが、語句の意味を問うものも出題されます。

合格への対策

まずは記述以外の問題での失点を限りなくゼロにすることです。選択肢は紛らわしいという訳ではなく慎重に解けば取りきることが可能です。その上で記述問題で点数を積み上げるのがこの学校を突破するコツです。記述問題で点数を積み上げるには、出題に対してどんな要素が得点になりうるのかを考えて書かなければなりません。特に物語文ではそれがわかりにくいので、出来れば中学受験専門の塾で学ぶ方が良いでしょう。

理数特化型進学塾 **進塾**

東京都北区赤羽西1-39-1 伊藤ビル3階

TEL 03-5924-7747



学校別傾向と対策～淑徳与野中学校～

理科

出題傾向

理社合わせて50分間、50点満点の試験になります。大問1は小問集合となっており、全分野から出題されます。大問2以降は物理、化学、生物、地学から1題ずつの大問5題で出題されます。しかし、近年では地学分野の問題を減らし、大問4題の構成になることが多くあります。出題形式からは、生物分野を中心に実験や観察を踏まえた問題が出題される傾向があります。また、物理分野、化学分野では計算問題が頻出です。

合格への対策

生物分野や地学分野の問題では、知識をしっかり覚えることが最も重要になります。記述問題も毎年、出題されていますが、典型になりますので、そこに対する対策はそれほど必要ではありません。物理分野や化学分野の問題では、計算問題が非常によく出題されています。問題の内容としては、決して難易度が高い問題ではありませんが、典型的な問題に少し工夫をされた問題が出題される傾向がありますので、普段の演習においても計算問題をパターン処理化せずに、理屈を理解することを意識することが大切になります。

社会

出題傾向

大問3題構成ですが、地歴公民とはっきり分かれているわけではなく、それぞれ融合されて出題されます。時事問題からの出題が比較的多いです。記述問題が出題されますが、知識をアウトプットするタイプではなく初見の資料などを元に思考させて書かせるタイプです。これは記述問題だけではなく、選択肢問題にもそういう出題が見られます。

合格への対策

覚えていれば解ける問題を絶対に落とさないことです。歴史や公民は比較的この傾向にありますので、ここで落とさないようにしましょう。その上で初見の問題に対する対処ですが、大前提はテキストレベルの知識は頭に入っていることです。知識がなければ思考はできません。そこを間違えて初見対策ばかりしているとこの学校のみならず、併願校すら危ぶまれます。初見対策は6年の秋以降で充分です。

理数特化型進学塾 **進塾**

東京都北区赤羽西1-39-1 伊藤ビル3階

TEL 03-5924-7747

